

真の光イエス・キリストと現場を照らす光わたし

(ヨハ 1:1~12)

1. 神の嘆きを聞いてイザヤが行くと言ったが、誰もあなたの言葉を聞かないと言われた。

▶ぶどうの木につながったら、多くの実を結ぶのは当たり前。実がなくても大丈夫？

2. 偶像にささげられた食事を拒否したダニエルと3人の友人

▶そのまましたところ、ペテロは怒りました。

▶王妃として1年間、準備しなければならなかったエステルは何を食べたかな？

3. 偶像に対して三人の友人は拝しないで立っていたが、ダニエルはどこで、何をしていたのか。

▶ライ病を癒してもらったナアマン将軍が自分の主人である王を支えるために偶像に拝まざるを得ないことに対して了承を求めるのはただの不信仰？(王下 5:18,19)

救い(真の自分回復)

真の光はすべての色を持っている。この光に当たるものはそれぞれの特徴によって様々な色を現わす。

神様は神様に背を向けて霊的闇に覆われている世界の隅々に余すことなくキリストの光を照らそうとされる(マタ24:14)。それで、神様が創造された時の元々の色が現れ、神様の栄光を褒めたたえられることを願う。

人の伝道(真の光のプリズムとなる生活)

どうやって神様の真の光を闇の現場に届けられようか。

時間と空間の中を生きている私たちの言葉と行動は、当然、部分的で、制限的で、偏りがある。それをもってキリストの栄光の光を正しく表現することは無理である。まるで子供に「ママをどれくらい好き？」と尋ねれば、子供は「こ～んくらい」と言いながら両腕を最大限に広げて見せることと似ている。科学的には正しくないかも知れないが、お母さんには確かにその両腕の真の大きさが伝わったはず。私たちの証人になった人生とはそういうことだ。人々より、神様が分かってくれたらいい。

神の宣教(真の光を照らす証人)

真の宣教は神様、ご自身がなさる。

真の光である神の霊で満たされた時、神様がこれまで作ってきた私のすべての体と心、人生が神様の栄光の輝きを受け、様々な色と形を現わすようになる。神様が自ら準備された「わたし」という反射板、投影レンズを通じてこの時代に応じた、地域に合った、わたしだけの福音の色、福音の形を照らし出し、神の栄光を現わされる。

こうして銀の彫り物にはめられた金のりんごのように、わたしはこの時代と地域、状況と環境にぴったり合う神様の栄光の光を照らすように造られ、準備されてきた唯一のキリストの証人である。神のみがこの私の確信と大胆さの背景であり、根拠となる。